

つくづく！災害に強いまち

●東海・東南海・南海地震

巨大地震に備えて

去

る9月17日、国の中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」は、それぞれ予想される震源域が異なる「東海地震」「東南海地震」「南海地震」が同時発生したときの被害想定を発表しました。併せて「東南海・南海地震防災対策推進地域」の指定候補地も示され、この中に田原市も含まれました（東海地震については、地震防災対策強化地域に指定済）。今月は、これらの地震に立ち向かうために必要な市民と行政の協働体制の現状について考えてみましょう。

防災対策室23局3548

When It Comes?

もしも同時発生したら

東南海地震は、東海地震と同じ海溝型地震ですが、直前予知が可能といわれている東海地震と違い、突然襲ってくる特徴があります。紀伊半島沖を震源に100～150年周期で繰り返されていて、直近では60年前に発生しています。従って、今世紀中にも発生する可能性があるのです。今のうちから防災対策を進める必要があります。

中央防災会議では、「今後、相当

期間東海地震が発生しなかった場合には、想定東海地震と東南海地震等との同時発生の可能性も生じてくると考えられる」との見解を示しています。なお、田原市と愛知県が独自に行った「東海地震・東南海地震連動時の被害予測」の結果は、次のとおりです。

建物被害（全壊）	3266棟
火災（18時）	39件
死者（冬5時）	111名
負傷者（冬5時）	1218名

（ ）内は想定条件。

行政 過去の教訓を生かそう

阪神淡路大震災では、倒壊家屋から救出された約9割の方が、地域の皆さんの力によるものでした。やはり、いざというとき頼りになるのは、家族や地域の皆さんなのです。

もしもの時に備えて、避難場所や非常持ち出し品などについて、家族と話し合いを持ったり、積極的に地域間で顔見知りになったりして、普段からつながりを深めておくことが大切です。また、自主防災活動へ参加すれば、防災への知識や意識が高まります。地域の皆さんとつながりを持つ良い機会でもありますので、防災訓練などにはぜひ参加しましょう。

災害に強い地域づくり・まちづくりを、力を合わせて一緒に進めましょう。



防災対策室
防災対策係長 寺田幸弘



巴江自主防災会
やまだのりやす
防災リーダー 山田典康さん

市民 地域と行政の協議を

防災リーダーになって、改めて市民の防災意識が高いことを実感しましたが、もっと一人ひとりが災害に対して危機感を持ち、日ごろから個人・家庭・地域における防災対策に取り組んでもらえたらと思います。

また、行政には防災対策全般の整備を期待します。具体的には、インフラなどの地域差を無くし、全体のレベルアップを図っていただくとともに、市民の声を取り入れるなど、今まで以上の支援を期待します。